

# 牛田新町 ウォーキングコース

不動院や日通寺など広島県の歴史名所だけでなく、太田川沿いの四季折々の水鳥観察、ゴルフ場のグリーン、バラ園などの美しい自然が楽しめる。

約1時間歩いたら

所要カロリー：約160kcal

★ ビールなら、中ビン1本追加注文

☆ ショートケーキなら半個分



① 天水の滴き水



② 皇子神社



③ 顕徳碑



④ 地藏尊



⑤ 貞在坂神社



⑦ 日通寺



⑧ 淺野山 寄付由來の碑



⑨ 神田山荘



⑪ 水道資料館



## <写真解説>

### 1 天水の湧き水（梅川水）

広島城の飲み水として古くから利用されてきた湧き水である。原爆時には多くの被爆者の飲み水となった。原爆慰霊碑にも献水されていた。現在は飲料水としては利用できない。

### 2 王子神社

王子神社は「文化度国郡志」にある旧戸坂村の小さな九つの神社の一つである王子社と思われる。

### 3 頌徳碑

天水一帯は、米作りをするには水が少なかった。そのため庄屋の桑本善太郎が太田川の水を引こうと努力したが、志し半ばにして亡くなった。この志を継いだ甥の牛尾孟が灌漑用水を完成した。その功績を讃えた碑である。

### 4 地蔵尊

一時期太田川の上流から流れてきていた川の水は、この付近で突き当たり下流に流れていた。渦を巻き危険な場所で水難事故が多かった。そのころからここに地蔵様が祭られていたようである。

### 5 自在坂神社

もとは鎮守八幡といわれ暦応2年(1722)に不動院の前の小山に安国寺の守護神として建てられ、また新町・戸坂・西原(祇園町)地域の氏神様でもあった。祇園バイパス工事に伴い現在の不動院裏の高台に移された。神田神社も大正の始め氏子の要請によりこの神社に合祀された。

### 6 不動院

奈良時代後期(天平年間)に安芸新山に、親日山蓮華王寺という古刹を開いたのは、僧行基と伝えられている。(一説に、僧空僧が開基と伝えるが年代不詳)

足利時代、諸國に安国寺を建てたとき、安芸の国ではここに安国寺が置かれ、銀山城主の保護で大変栄えた。その後衰退したが安国寺恵瓊により再建・整備された。天正16年(1588)に山口、周防の香積寺(現瑠璃光寺)の金堂を移築した。その後文禄3年(1594)には楼門を再建された。鐘楼は恵瓊が朝鮮から持ちかえったと言う梵鐘が納められている建物である。福島正則が広島城に入城してから、宗派を臨済宗から真言宗に改め不動明王を本尊として祭ったことから、不動院と呼ばれるようになった。

金堂は唐様の仏殿で国内最大規模のものであり国宝である。楼門・鐘楼は国の重要文化財となっている。

### 7 日通寺

浅野家の菩提寺として元禄8年(1695)に、浅野家3代藩主綱展(つなあきら)の母、自昌院により建てられた。国前寺が藩の菩提寺であったが、幕府により日蓮宗(不受不施派)が禁止されたため一時的に改宗をし、天台宗、日通寺が建てられた。昭和42年(1967)火災で全焼し、平成3年(1991)再建された。

### 浅野山寄付由来の碑

昭和18年(1943)浅野長武旧浅野藩主より浅野山の付近一帯を広島市に寄付された。戦後この地域は小・中学校や神田山荘・神田山長生園など文教・社会施設が建ち現在に至っている。この碑には寄付の由来が記されている。

9 広島原爆被害者療養研究センター 神田山荘  
昭和48年(1973)に神田山荘ができ、その後平成7年にポーリングにより温泉が湧き出、増改築され市民が利用できる施設として現在に至っている。

### 10 バラ園

平成6年(1994)に牛田総合公園が開園し、その中にバラ園ができた。ここにはモンテリオール島を模した「ミニチュアガーデン」もあり、回りにはサクラの木も多く花の時期は美しい。

### 11 水道資料館

牛田上水道として明治31年(1898)に完成しその後85年間余り、広島市に給水されました。昭和55年(1980)に大部分が高陽町に移転し、その後一部を残し、その多くが歴史を閉じた。昭和60年(1985)に送水ポンプ室が改装され水道資料館とされた。

### 12 中州(コロニー)

新工兵橋の目の前のコロニー<sup>※</sup>ではアオサギが大きく翼を広げて舞い降りる姿や、子育ての鳴き声を見聞することができ、多くの人々の観察、写真スポットになっている。

秋から冬には、このコロニーはカワウの寝ぐら、休息の場になっている。この外にもヒドリガモ、ユリカモメなどの冬鳥、コアジサシ、オオヨシキリなどの夏鳥、コサギやカルガモなど一年中たくさん鳥を観察できる。

注・・鳥が巣を作る場所

### 13 工兵橋

大都会では珍しいつり橋。明治22年工兵隊がかけたので「工兵橋」と名づけられた。昭和60年補修され、川岸の樹木越しに水面に浮かぶ景色は格別で、今も多くの人が渡っている。